

園長だより 第2号 「最初の第一歩」

昔からある遊びの一つに「だるまさんが転んだ」があります。皆さんもご存じのように「最初の第一歩！」とみんなで声を揃えて第一歩を踏み出すことでこの遊びが始まります。

お子さんは成長していく中で様々な「最初の第一歩」を体験します。お子さんにとっては「最初の第一歩」を体験することそのものが成長するということになるのかもしれませんが。

城東ちどりの子どもたちは園舎の中で上靴をはいています。その上靴は1週間の最後の登園日に保護者の方が持って帰り、お家で洗って、また月曜日に持ってくる。そんなパターンが多いようです。そこで私からの提案です。ゆめ組・そら組のお子さんに上靴洗いの「最初の第一歩」を体験させてみませんか。皆さんがご自身のスニーカーを洗うような日があれば、お子さんも一緒に上靴洗いをさせてみてください。もちろん、お子さんの上靴洗いは皆さんが思っておられる以上に段取りが悪いですし、汚れも思うように落ちません。保護者の皆さんがやった方が効率もよく、きれいになります。当然です。でも、体験させてほしいのです。どんなに上手くいかなくても、必ずお子さんをほめてあげてくださいね。

「上手やなあ。」

「きれいになったね。」

間違っても「あかんなあ。貸してごらん。ママがやってあげるわ。」というようなことにならないようにしてくださいね。皆さんの思うようにきれいになっていなくても、そこはグッとこらえて「わあ、すごい！きれいになったね。」です。

大切なことはお子さんが最後まで自分一人の力でやり遂げたと思うことです。でも、やっぱり子ども力ではゴシゴシ洗えないのできれいにならないですよ。そんな時は、面倒くさいけれどお子さんが眠った後にもう一度洗ってあげてください。絶対に気づかれないようにしてくださいね。何度も言いますが、お子さんに自分一人の力でやり遂げたと思わせることが大切です。それが勘違いでもいいんです。保護者の方の面倒臭いことの積み重ねがお子さんを育てていくことになります。

お子さんを成長させる方法はたくさんあります。前から手を差し伸べてお子さんの手を引いてあげる。これももちろん「あり」です。でも、お子さんの背中を後ろからそっと押してあげるというのが効果的です。お子さんが背中を押してもらったことに気づかず、自分一人の力でやり遂げたと勘違いするような背中の押し方ができれば最高です。

こんな割の合わない支援の仕方ができるのは保護者の皆さんだからこそです。皆さんのお子さんにかかる思いや愛は「見返りを求めない」ものですから。でも、保護者の皆さんのそんな気持ちの中で育てていくお子さんはいつの日かきっと皆さんに素晴らしいものを返してくれるようになりますと私は信じています。

最後に・・・。

くれぐれもこれはないようにしてくださいね。

「昨日の夜、ママがもう一度洗っておいたよ。きれいになったでしょう。」